（昭和七年六月十五日第三種郵便物認可）

夕刊

四月二十四日

發行兼編輯印刷人　伊藤隈次
福島縣石城郡小名濱町古港一
發行所　常磐新聞社
日刊　但日曜祭日翌日休刊
一部　二錢　一ケ月　三十錢
廣告料　一行　五十錢

クスリ
資生堂
小名浜町
電一四七

天氣豫報

今晩【南の風晴薄曇】
明日【南東の風曇】

小名濱觀測所

祝小名濱商港竣功

本縣唯一の海の玄關小名濱商港は九ケ年の歳月と二百七十萬圓の工費を以て豫定通りの完成を告げ、けふ晴れの竣功式を擧行されることになつた、幾多の辛酸を重ねて功報いられた工事關係者の感慨と、此の日あるを待ちに待つた一萬五千町民の悅びは蓋し筆舌につくし難いものがあらう。

想へば小名濱港修築工事の着工されたのは昭和四年五月二十四日である、しかも此の間尋常ならざる紆餘曲折があつた。

德川幕府時代における本港は磐城諸藩の上納米輸送の門戸であり、又日清戰爭當時までは常磐炭及び諸物貨の移出入港として船舶常に輻輳してゐたが、戰後常磐線の敷設によつて狀勢は俄に一變し、昔日の殷賑を見ることが出來ずして僅に漁港として利用されてゐた、加ふるに設備としては皆無に等しく單なる漁港としても種々樣々の支障を來すので、縣は政府の補助を得、大正七年度から大正十四年度に亘り工費百萬圓を以て修築工事を施行、防波堤、防砂堤等を築造したが、其の規模は何れも少さく港内は漂砂のため漸次埋沒し港灣の價値が低減するので町當局をはじめ各方面關係者が寢食を忘れて擴張工事促進に奔走し、その結果、縣は第五十六議會の協贊を經て修築工事の計畫を樹立したのである。

この計畫は工費三百八十八萬圓で、三千噸級船舶を三隻同時に接岸せしめ港内には同型級船舶を二隻繫留せしめ得べき當のところ、時の政府の緊縮政策により昭和六年三百五萬圓に節減され更に昭和八年に至り二百七十六萬圓に削減されて已むなく計畫の一部を變更し防波堤及び防砂堤を短縮した。

かくて工事が進められ、遂に完成したのである。現在の商港は三千噸級二隻が同時に接岸され、港内には同型級一隻が繫留され得るわけである、過日三千噸の太興丸が入港、岸壁に横付けとなり商港の價値を十分に立證した、しかも近き將來現修築工事に繼續して更に第二期工事の施行されることは必定である。

又修築工事に伴ひ後方には二十三町約七萬坪の廣大な埋立地が現出し、これが利用による地元小名濱町の繁榮も蓋し絶大なりといふべく、又更に商港利用の先鞭として總工費二千萬圓の日本水素工業會社の大工場も本港に接續して建設されつゝあり、來春早々操業に着手されんとしてゐる。

さればこそ第一期商港修築工事の完成した〃明日の小名濱〃は期して待つべしである。

輝しき竣功式を迎ふるに當り改めて工事關係者の努力に感謝の熱意を捧げ、本港將來の發展を祈念してやまない。

昭和十三年五月二十五日

常磐新聞社

九ケ年の工を終へて
けふぞ式典擧行の日！
―小名濱港空前の盛儀―

躍進小名濱町に一小名濱町では此の日戸毎に國旗から打上げられて祝賀氣分をい新紀元を劃する商港竣功式は内務省仙台土木出張所長祭文を揭げ、旗行列を行つて悅びのやが上にも煽つた。

日を祝し、數百發の煙火は早朝

（寫眞は商港岸壁）

悅びは溢る

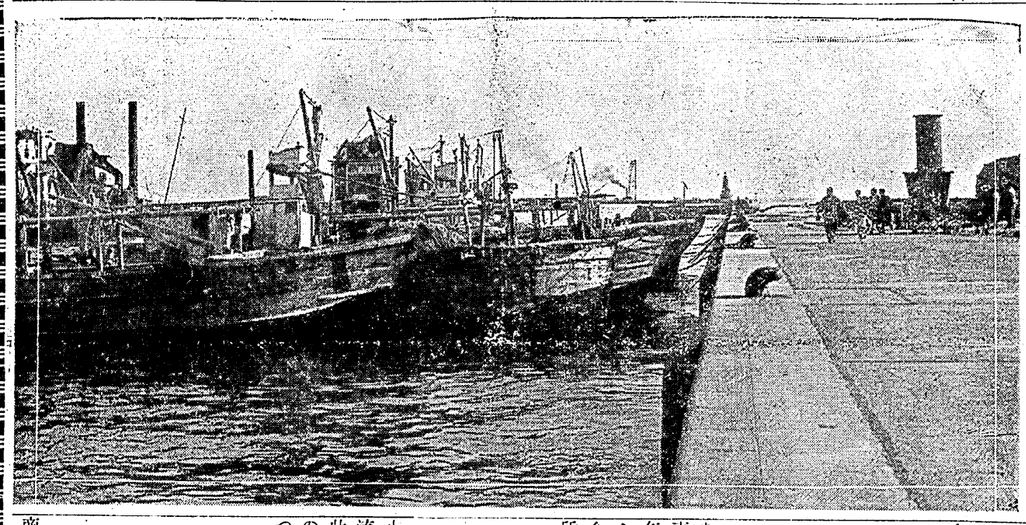
仙台土木出張所が主催となり二十五日午前十時から新裝成つた岸壁で、修祓

降神（此の間奏樂）
獻饌（此の間奏樂）
齋主祝詞奏上
内務省仙台土木出張所長祭文奏上
内務大臣以下玉串奉奠
齋主玉串奉奠
參列者一同拜禮
撤饌（此の間奏樂）
昇神（此の間奏樂）
内務大臣祝詞
來賓祝詞

の順序によつて壯嚴裡に執行、次いで〃港橋〃の渡橋式を兼ねて落成近い魚市場に到り、竣功式祝賀協贊會の盛大な祝宴に臨んだ。

祝賀協贊會では東京淺草公園橋館一座を招き、豊は會場魚市場で、夜は小學校で夫々萬歲、寄術、歌謠曲、長唄、箏曲演奏及び鶴田、塚本氏らの詩吟、琵琶等の余興を催し、海岸埋立地では野球大會、相撲大會を、水産試驗場弓道場では弓道大會を開いた。

一方中央氣象台觀測船凌風丸（一、一八〇噸）は二十五日本港に入港し岸壁に繫錨して祝意を表し、又港内の磐城丸以下大小船舶は何れも滿艦飾で分列行進を行ひ本港空前の壯觀を呈した



祝辭

小名濱町長　小野晋平

小名濱港修築工事完成を告げ、本日茲に盛大なる竣功式を擧行せらるゝに際し、閣下並に朝野多數名士の御來臨を辱ふし空前の盛況を以て本町發展の一新紀元を祝福するを得たるは當に不肖の光榮たるのみならず吾町民一同の名譽とし永く本町の誇りとなすべく感銘感奮、謹みて滿腔の謝意を表して已まざる所なり。

抑も本港は太平洋東北沿岸中最も形勝を占め、之に修築を加ふに於ては東北有數の良港として産業並に軍事上極めて重要なる港灣たることは獨り識者を俟つて知るべきにあらず、當局茲に見る所あり、昭和五年第二種重要港灣として指定せられ、昭和四年五月修築の工を起されてより既に九ケ年の星霜を閲し巨費を投じ難を排し拮据經營遂に豫定の工事を竣りて地方民多年の渴望を醫せられ本日茲に竣功式を擧行せらるゝの盛運に會すこれ實に本縣が初めて太平洋に向つて發展すべき新生活を開くものにして縣民の齋しく慶幸に堪へざる所なりとす。

斯くて煙波靜かに内外無數の般舶を吞吐し將來の殷賑期して待つべく、共の亨くる多大の福利は量り知るべからざるものあらん、猶進んで第二期擴張の計畫と陸上に於ける諸般の經營とは擧げて今後に屬すべく自今益々協心戮力、之が利用に努むると共に共の價値の增大ならんことを期せんと欲す。

茲に本縣と共に苦が小名濱町が荷へる光榮を祝し併せて本港修築の爲畫夜斡旋盡力の勞を致された當局者並に一般各位の偉大なる功勞に對し衷心感謝の意を表し一言歸辭を述べて祝辭となす。

昭和十三年五月二十五日

時機到來の上は
猛烈な促進運動
第二期小名濱修築工事
福來所長は來月一日付轉榮

第一期工事完了した小名濱港修築工事は現工事のみでは港内過大に失して港内の絶對安靜を期し得ないばかりでなく波浪の浸入によつて港内水深の維持上も多小の不安を感ぜられるので縣並に町當局では更に第二期工事を繼續せしむべく時期到來を待つて猛烈な促進運動を行ふはづである從つて内務省出張所では殘務整理を縣に委任後もコンクリートケーソン用大鐵塔を分解せず現場に殘す事になつた、第二期工事の規模内容は大体次の如く觀られてゐる、

總工費百八十萬圓で埠頭西側に三千噸級の船舶横付し得る繫留岸壁を築造し現在三百九十米の防波堤を三百米西方に延長し且突堤と防砂堤の區間約三百米の護岸築堤をなす、又其の計畫區域は次の通りである、（括弧中は戸數）

小名濱町　一二、四四八（二、三五五）
江名町下神白　四五四（六八）
玉川村南富岡　二〇三（二八）
同大原　四八三（六二）
同岡小名三四二（八六）
泉村瀧尻一、四八五（二七一）
計一五、四一五（二、八七〇）

小名濱町は第二種重要港灣として實現するか見當が付かぬ狀態にて指定せられ昭和四年五月以來置かれてあつたのである、然る商港工事の進捗を見、人口戸數に偶々淺野總一郎翁の百萬圓寄の著しい增加に伴ひ都市計畫を附が動機となり、時の川澤沿馬實施すべく内務省に申請した處知事に極力運動、其効を奏し五昭和八年十二月二十八日を以て千圓の調査費を以て約六ケ月以指定を受けたので直ちに計畫を上に渉りて港灣の權威者の手に樹て道路網の測量を行つた結果より調査研究を遂げられて、設計畫區域に決定した人口、計目論見を立てられたのである其工事は約參百萬圓でありました、而も縣と我町は之を携へて一生懸命に内務省に大々運動、其効を奏し内務省に於ても之れが調査研究を加へられたる結果第二種重要商港として、而かも三百八拾萬圓に增額せられ、六ケ年繼續事業として實現したのである、其間に於ける幾多の迂餘曲折に遭遇したが實に言語に絶するものがある、それ等幾多の難關を突破して漸く我町三十年來の念願が成就して伊藤菅八郎知事時代、即ち昭和四年五月廿六日に起工式を擧げられ、町民擧つて欣喜雀躍、手の舞ひ、足の踏む所を知らず、と云ふ歡喜でありました、然るに同年七月二日の濱口内閣の改變に於て緊縮豫算編制に禍されて、工費貳百七拾六萬餘圓に激減され、竣工年度も三ケ年に延長されて九ケ年となつたのであるが、之迄に至る經緯を追想すると實に涙くましいものがある、緊縮政策の結果、新規の事業は中止、或は繰延となるに聞き、我町三十年來の苦心大奮闘が水泡に歸するの運命は立至らんとするを幸なる哉、爾來九ケ年の星霜を閲して町民は愕然自失、殆んど爲閲し第一期工事の完成を告げ、す所を知らずと云ふ死活の大問題に遭逢せり、茲に町民大會と本日茲に我町空前の歴史的竣工祝賀式を擧行するに際し聊か所なり、時の小柳牧衛知事に涙な感の概要を述ぶるを得たるは誠がらの陳情する所あり、又明治に欣快に堪へざる所であります神宮に小名濱商港繼續祈願團を〔記者註〕飯塚老はかつて郷組織して大擧上京、要路の官憲議たり、町議たる事殆と、老に對し涙ながらの陳情を爲した齢迄町治上には功勞のあつた事は轉た感慨無量にして、今人で町の元老格である。

更記憶に新なるものがあります

小名濱の都市計畫
『計畫區域の人口一五、四二五』

同港の漁船は計三百六十七隻で五噸未滿一四二、二十噸未滿一〇〇、二十噸以上二五である。

初切名人
相撲大會に兩力士來る

小名濱相撲協會では協贊會後援の下に初切で知られた玉手山、小關子兩力士を迎へ竣工式當日築港埋立地で相撲大會を開催。

所感

飯塚榮一郎

小名濱港
入港船舶
『國土産の〃港橋〃けふ渡橋式

小名濱港修築事務所が小名川下流埋立地に架橋した〃港橋〃は此程工事一切を完了、二十五日の同港竣功式終了後渡橋式を行つた。

〃港橋〃は延長三十米、有効幅員九米、工費一萬六千圓で鐵筋コンクリートの見事なもの。

商港竣工の歡びの日を迎へた小名濱商港は太平洋上に於ける良港として明治初年より之れが修築を叫ばれたのである、從つて國防上より見ても商港と成るべき可能性は充分にあつたが、何時

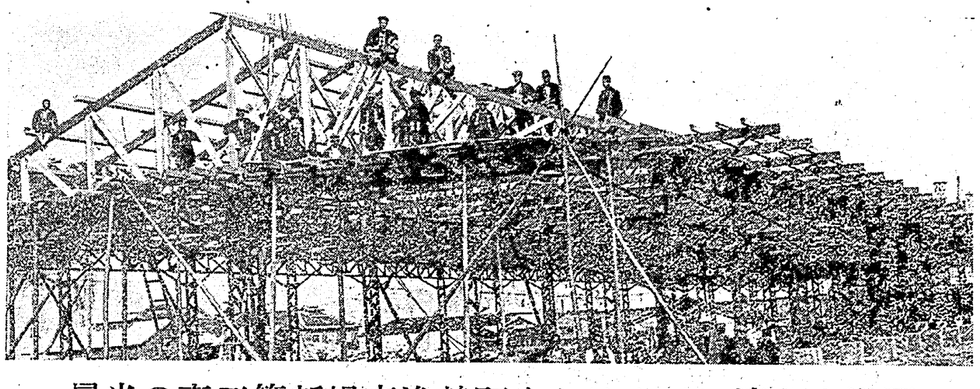
小名濱救難所
救助艇設備を計劃

帝國水難救港會は遠く明治二十二年十一月發會され以來海國日本の海難救助の道を講じて來たが小名濱には昨年十一月三日救難所が設置された所長に小野小名濱町長副所長に作山江名町長鈴木豊間村長が就任し現在會員五十三名を有してゐる

救難所では二萬圓の豫定で救助艇を設備すべく準備をすゝめ役員一同奔走してゐる

尚救難所の督監には八巻平署長が當り小名濱警部補派出所西條警部補は監督委員として盡力してゐる

（寫眞は小名濱漁業組合と救難所）



景光の事工築新場市漁營町きしはさふに濱名小進躍
〔るなと場會賀祝功竣港商の日本〕

衷心の謝意を

式典擧行に際して

修築事務所長　福來總十郎

小名濱港修築工事は本月末日を以て其の工を終へることゝなり、本日多數貴賓の參列の下に竣功の式典を擧行する運びとなつたことは詢に慶賀に堪えぬ、

顧れば本港は第二種重要港灣として總工費三百八十八萬圓を以て昭和四年五月、內務省直轄のもとに起工せるものなるが工事半にして政府財政の都合により工費を二百七十六萬圓に減額の余議なきに至つたのである、其の結果已むを得ず防波堤の延長を短縮したるため、港內の絕對安靜を期し難きのみならず接岸設備の削減、又は泊地の縮少等、港灣利用上に於て遺憾の點を免れざる事ゝなつたのである

茲に於て現計畫に引續き第二期工事を以て利用の完璧を期する必要ありとし其の實現亦概ね可能の如き狀勢なりしところ偶々支那事變の突發により暫く曖昧の上來る可き時期を待たざる可らざることゝなりしは國家非常時に際し已むを得ざる次第である、然らば現修築計畫竣功したるのみにては利用價値なきかと云ふに左にあらず、前述の如く多少の不便は免れ難はずと雖も三千噸級船舶二艘を接岸し更に一艘を繫留せしめ得るものにして物揚場護岸と共に優に二十萬噸乃至三十萬噸の荷役能力を具備するものにして臨港鐵道並に道路、貨物積卸機械等の完備する曉は北太平洋岸横濱港臨釜港間唯一の商工混成港として、相當の發展を爲し得るものと確信するものである、須らく現設備を遺憾なく利用の途を構ずることが肝要にして第二期、第三期擴築工事促進の重要なる根源をなすや明である

尙本修築工事竣功すと雖ども單に港灣を形成せるに過ぎず、之が利用の完全を期するには更に幾多の施設を要することは言はを俟たざるものにして今後共本港關係官民協力一致の上大小名濱港の實現に邁進せられんことを希望するものなり

本日修築工事竣功の式典を擧ぐるに際し起工以來地方官民の絕大なる援助と修築工事從業員の獻身的の努力に對し萬腔の謝意を表すると共に、尊き工事犧牲者八名の遺靈に對しては哀悼の念切なるものあり、謹んで冥福を祈る次第である

昭和十三年五月二十五日

感無量に盡く

鈴木前町長の悅び

大正二年一月より昭和八年一月迄引續き得たることは翁にとつて限まで町長の椅子に就き且つそれ程なき悅びで、さながら我子の迄長らく

の更員、助役を勵み殆ど一生涯を小名濱町に捧げた前町長鈴木榮翁は今八十路を迎えて穩かな餘生を樂しんでゐるが、さればこそ今回竣功式に勝なに、しかし感無量の面持ち

で語るのである

『今日の式典に會した事は、實に悅びに堪へない、たゞ〳〵感慨無量といふ外は千萬言を以て言はない、想起すれば小名濱商港陳情共の他の運動に日も尙ほ足らずの狀勢であつたが當時の本郡町村長會が小名濱町に協力し分品一式で築港內に出張所を設け江名中の作には特約販賣店がある、專務取締役佐藤作平氏は第一線に起ち社員の統制と指揮に生れたもので同業者との統制に順應して堅實なる歩みを續け着々成績を擧げてゐる、同社は小名濱水產の重役の外に五來新五平氏、平野直保氏が列してゐる。

水揚げ二百萬圓突破

小名濱漁業協同組合

藤庄大一　馬上松太郎

昭和八、九年の頃一般的な好況の波に乘り、小名濱町には雨後の筍の如く何々會社が簇生したが何れも霧消して了つた中に小名濱水產會社丈けは確然として居殘り時代の機運に乘つて隆昌の一路を歩んでゐる、同社は大正九年の設立で資本金十五萬圓三分の一拂込みで營業は船具漁網發動機部產の姉妹會社で資本金十萬圓、船舶に對する油類の配給を目的とする株式會社で同業者との統制に順應して堅實なる歩みを續け着々成績を擧げてゐる、同社は小名濱水產の重役の外に五來新五平氏、平野直保氏が列してゐる。

小名濱町教育機關

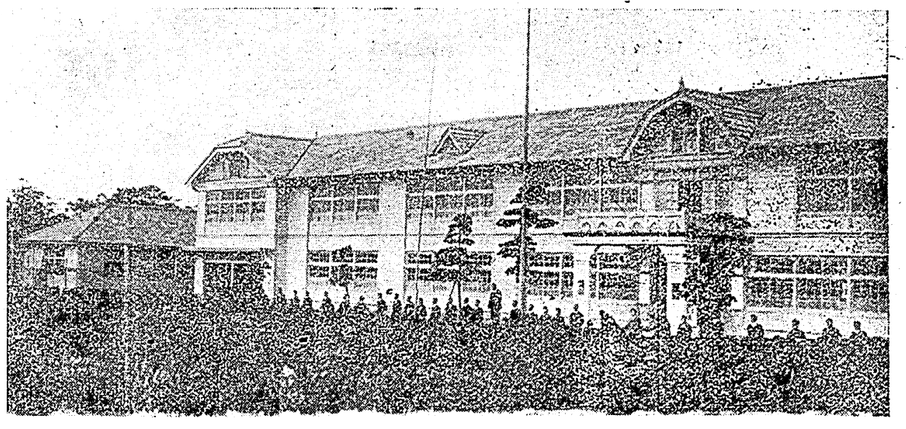
一、小學校學級三十七
尋常科三三、高等科四、
兒童數二、二〇九（男、一一三、女、一〇七）
職員數四〇（男一五、女一五）
學校看護婦一
實業學校、學級五
生徒數二六二（男一一九、女一三三）
職員數九——男八　女一
小名濱成章女學校、學級三
生徒數八八
職員數三

以上を綜合する時は兒童生徒數二千六百職員數五十三名である近時商港の完成、水素工業會社の新設に伴ひ就學兒童は著しく增加し校舍が狹隘を告げるに至つたので、十三年度においては工費八萬圓で校舍の增築を爲すべく着々計畫を進めてゐる、尙小名濱校は校長の異動頻めて尠なく開校以來現校長西山直三郎氏は五人目で大正十五年七月の着任である。

小名濱礦油株式會社

小名濱礦油株式會社は小名濱水

福島縣水產試驗場



（寫眞は小名濱小學校の一部）

本縣水產試驗場は明治三十五年を以て常時海洋漁場調査と漁獲の創立で本場を小名濱町に置き本縣漁業家の指導試驗及調査が目的である、同試驗場は製造養殖漁撈の三課に分れ漁撈方面では指導船磐城丸（鋼鐵船百二十二トン二百五十馬力）の優秀船に流れ込み、タツトキ卽ち揚繰船三條の所有者となり、町議に迄浮び上つてきた、今後の氏こそいよ〳〵風雲兒の本姓を現す事であらう。

◇　◇　◇

町議　立花雄七氏

偉大なる體驅と見事な白髯、而して滋る〳〵ばかりの溫容は何人も抱擁せずにはおかない、しかも決して形ばかりではない、八島屋として代々の大船主、町議は四期目で漁業組合の元老である。

◇　◇　◇

町議　立花秀吉氏

氏の如きこそ風雲兒といふにふさはしく、久慈の濱より小名濱氏は今見雄七氏と肇を並べて町議の榮冠をかち得た衆人羨望の存在である、社交的素質に富み小名濱藝妓屋の元老で興隆小名濱の尖端を行く商賣だけに氏の出所進退は注視されてゐる。

◇　◇　◇

町議　木田谷平氏

この間迄の小學校訓導が家事上の都合で敎職を退き家業の材木商人と成りすまし間もなく町議戰に凱歌を奏した風雲兒敎育家を前身とする人には稀れな含みのある、人で將來氏の社界人としての歩みは仲々に興味が持てる。

◇　◇　◇

町議　小野長松氏

任、明快な手腕家で淺海養殖及沿岸漁業改善等本縣斯業開發のために盡瘁し信望をあつめてゐる。

小名濱學務委員

小名濱町學務委員は本春一人の指導者を殘した丈けで全部更新待ては海路の日和で來憂商として鳴かす飛ばす數十年老境に入つて學務委員町議と御鉢はどん〳〵廻つてきた、堅實味と眞面目さで町會にも期待される所多い。

◇　◇　◇

町議　松本房之助氏

努力家の典型に松本町議がある農家に生れ、今日では地主、家主、金貸で局で風を切る、隋民には良き清凉劑的な存在だ。

◇　◇　◇

町議　飯塚藤右衞門氏

氏は二回目の町議として飯塚一門を代表し溫堅質實な選良である、鶏農家として知られ海產物製造にも手を染めてゐるこれから小名濱は多角的にと敎ゆる如くに。

◇　◇　◇

町議　高木惣治氏

高木氏はセメント瓦製造で成功の域に達し更によりよき成功を見ることは間違ひない、努力は酬いられるからである、町議は二回目で又今度は衞生區長迄も持込まれる、人氣者である。

◇　◇　◇

町議　後田義之助氏

後田氏は海產物商として成功した人で堅實この上もない、他の議員がモーニングを作つても角屋には必要ないと徹底した頭の持主である。

◇　◇　◇

町議　菅原　勳氏

多角的な商法でドシ〳〵立場を高めて行く人に菅原氏がある、不動產商、石炭商自動車業、海產物製造、仲買人等隨分まだまだある、現代型の紳商で將來に幸福が待つて居らう、町會は初陣だ甲ノ上の部である。

◇　◇　◇

町議　丹　清治氏

氏は出る〳〵で何時でも自重し初めて町議の椅子に坐つた人でそれ程に反省心の强力な人なのである、醬油釀造の堅實な職業を選んだのも性格の然らしむる處であらう。

◇　◇　◇

町議　野崎昇太郎氏

野崎氏は純然たる商人で眞面目に店頭に働き他を顧みない信用組合の理事町議は二期何年たつても、不良老人にはなれぬ人格である。

◇　△　△

町議　藤社重吉氏

氏は造船業として今日成功を收めた、奮闘家で働き振りに至つては町議中隨一である町議たる二回將に町の顏役の域に達してゐる。

町當路者と町會議員

―人物と事業の素描―

町長　小野晋平氏

小野町長の人物は一般の知悉する處で多辯を要しないが、政界の人としても郡內隨一、事業家としても多角的に飛躍し行くとして可ならざるなき現狀である町理事者としても小名濱町にはなくてならぬ存在である、

◇　◇　◇

助役　高木保氏

小名濱町議中で回期を重ねる點に最も安全性のある人は岡山氏である、氏は二十餘年收入役たり、助役たり、役場の樞機に參與し、好評さく〳〵たる人、本町の市制施行を目前に控へて小野町長の後を繼き二代目市長を豫約されてゐる。

◇　◇　◇

町議　岡山重喜氏

氏は名收入役として危け氣のない堅實なる點、比肩するなき重みがある、本年第三期目の重任を見、恰度町長助役不在勝の留守師團長格である。

◇　◇　◇

町議　小濱長太郎氏

町議七期を重ねた小濱氏の如きは他町村に於ても稀れであらう氏であろう、其處に岡山氏の一言一行は視聽の的となるもの。

◇　◇　◇

町議　比佐政種氏

と程左樣に小名濱町は小濱氏を必要としたのだ、最近の小濱氏は人間的にも圓熟味を加へ益々存在を大にしてゐる。

◇　◇　◇

町議　野崎貞行氏

少壯議員として漁業家の立場から本町、行政に何ものかを暗示せしめんば已まずの意氣を眉宇に現はしてゐる漁業と町政は密接な脣齒の間に置かれてゐる

◇　◇　◇

町議　近藤安雄氏

先祖は一人もなく野崎氏も良く漁業と共に父祖の意を繼いで町政に盡力してゐる尙ほ青年分團長として粉骨の努力を捧げてゐる。

◇　◇　◇

町議　田中權次郎氏

絕然たる船乘りから叩き上げた船主でコマセ船、打瀨船、曳船底曳、揚繰と漁業機の最高を納の一人である。

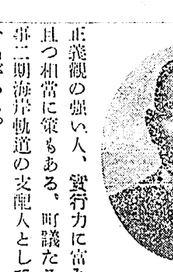
◇　◇　◇

町議　西丸　猛氏

來た人丈けに理論議員として白眉である、小名濱町魚市場の元締的存在で立場は益々重要性を深めて行く。

◇　◇　◇

町議　福尾伊太郎氏



福尾氏は小學校長、會社支配人兼して町議と云ふ階段を踏んで男子意氣で行くの性格の持主である、總てが初陣である丈けに將來には輝しき約束がある、本町も青年層の出色的存在で背景もよく次代の本町を背負ふ重要人物である。

◇　◇　◇

町議　三代義勝氏

氏の如きこそ風雲兒といふにふさはしく、久慈の濱より小名濱氏は今見雄七氏と肇を並べて町議の榮冠をかち得た衆人羨望の存在である、社交的素質に富み小名濱藝妓屋の元老で興隆小名濱の尖端を行く商賣だけに氏の出所進退は注視されてゐる。

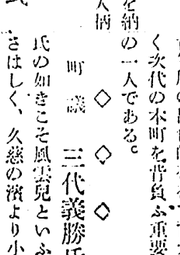
◇　◇　◇

町議　木田谷平氏

この間迄の小學校訓導が家事上の都合で敎職を退き家業の材木商人と成りすまし間もなく町議戰に凱歌を奏した風雲兒敎育家を前身とする人には稀れな含みのある、人で將來氏の社界人としての歩みは仲々に興味が持てる。

◇　◇　◇

町議　小野長松氏



良い點には隨一である、魚市場

小名濱繁榮史を彩り
日本水素工業　鮮やかに巨歩を踏み出す

中野日曹社長

藤村日本水素工業工場長

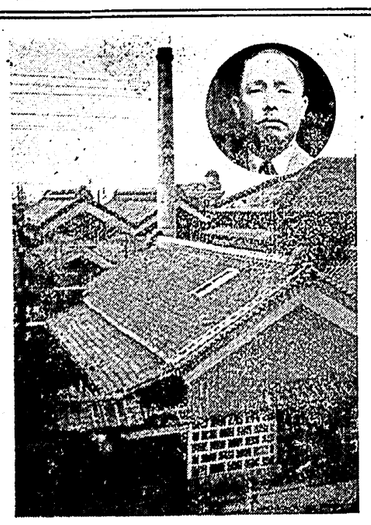
當代事業界の麒麟兒日本曹達株式會社々長中野友禮氏を社長とする日本水素工業株式會社は小名濱町に約十萬坪の敷地を求め資本金三千萬圓の硫安工場を建設すべく總工費二千萬圓で今や工事は白熱的な進捗を見せ本年十一月には完成の豫定である、製産高は

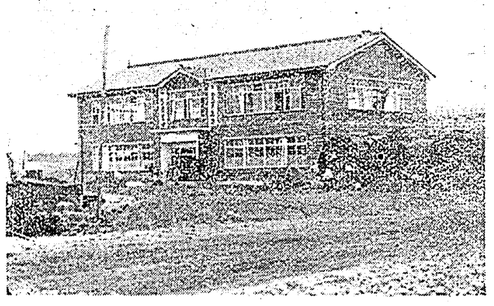
アンモニア合性日産八十噸硫安年産十萬噸硫酸日産三百噸

其の他メタノール、硝酸等で工場はガス發生工場、アンモニア合性工場、メタノール工場硫安工場、ドラム鑵工場、製造踏み出した。

工場、工作工場等に分れこれらの動力としては火力發電所が設けられ非常時日本の化學工業界に萬丈の氣を吐くものである、水素工業會社は日本曹達會社の傍系會社で社長には前記の中野氏を戴き工場長には社長の信任厚き藤村利常氏、技師長には小名濱町に信望高い杉原精氏、庶務課長としては誠實な熟の人吉元啓一氏が就き商港小名濱を更に工業都市たらしむべく巨歩を

岡崎屋本店




〔小名濱日本水素株式會社〕

味噌、醬油、醸造業として、岡道に完きを期してゐる、店主岡崎屋本店は各地に支店出張所を設け大量醸造を成し常に科學的方面の研究を怠らず味覚價格両

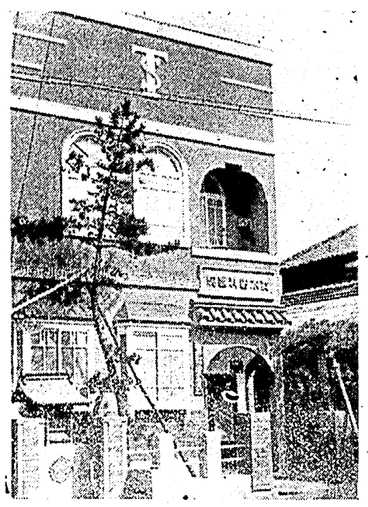
クスリは資生堂
關内仁平氏

クスリは資生堂の關内仁平氏も商賣上手で自然にクスリは資生堂に一般的に傾いて來た。

金成屋洋品店
金成嘉忠氏

小名濱の代表的洋品店金成屋店主金成嘉忠氏は商店經營には種々計畫を樹てゐるがその一つは店舗を現代的に改造してデパート式にする事で一面社界公共の爲にも乗出して働き出して來た

鈴木齒科醫院



小名濱町目抜きの通りに堂々たる洋風建醫院を建築し日淺きにも拘らず門前市をなすの形容詞そのまゝに繁忙と信頼とを一身に集めてゐる鈴木醫院、鈴木正制の下に警備に當りまた、社會院長も亦特異な大きな存在である公共事業に多くの治績を貽して先頃は小學校醫に推薦されたゐる、松本組頭は昭和五年松原が先輩を羨望いてはと同醫して副組頭は昭和六年の就任で日淺頭に松原正美氏の陰陽宜しき統

小名濱消防組
當局から數回表彰

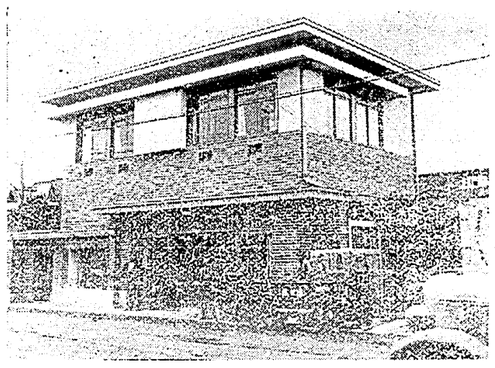
組頭松本氏

優良組として數回に亘り當局かきにも拘らず、就任以來志賀元組は組頭に松本德次郎氏、副組頭に松原正美氏の陰陽宜しき統率の下に警備に當りまた、社會は消防屯所の建設など、躍進小名濱に最も必要な諸設備を整へた功績は大きい現在の幹部は左の人々でいづれも町の中堅人物である。

二本松電氣
小名濱支店

小名濱地方一帶に電燈と電力を支店區域に於ける電燈並に電力供給する、二本松電氣株式會社の需要は商港の完成目本水素工は明治四十年二月の創立で當時業小名濱工場起工式等に伴ひ擴張に伴ひ大正十四年三月好間支店では之に備へ萬金を期して川水電株式會社小名濱支店區域供給に應する爲め目下玉川村關を合併其他により增資に增資を小名地内に變電所を竣設中で近つゞけ現在資本金百九十六萬圓完成と共に漸次近代工業都市化く跛功の運びとなつて居り商港金額拂込濟の大會社となつた、社長橋本萬之介氏支配人は田中せんとする小名濱町に電力エネ深一氏である、營業區域は本社ルギーを供給する二本松電氣小區域は二本松外十三ケ村、支店名濱支店の活躍はいまや斯界の區域は小名濱町外九ケ村である注目する所となつてゐる。小名濱支店長は初川茂藤氏で同

銘酒清世界
清水屋本店



銘酒清世界を以て小名濱町の上受けなかつたなど一寸胸のすく話題を投げた男前の男である、開業僅か一二ケ年で患者待合室が狹くなり增築しなければならぬとは鈴木先生自身、あまりの隆盛さに驚いてゐる事であらう

代的店舗を改築して以來賣上高が倍加したといふ清水屋本店、小名濱で酒と云へば清世界が合言葉と云はれる程に賣出した商略は誠に偉なるものである、廣告料などは屁でもないと云ふも亦宜なる哉見に角小名濱に一歩足を踏入れて清世界を口にしないのは上戸でないと云ふのだから大したものが

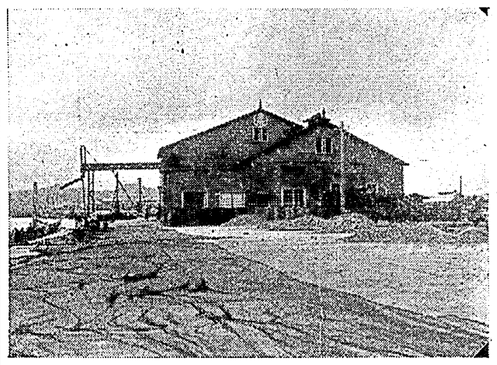
小名濱に躍る平製氷
夏季需要期の備へ全し

副組頭松原氏

となつて需給關係の圓滑を期してゐたが小名濱の發展に順應すべく昨年更に第二工場を岸壁の樞要個所に增設し碎氷機を取付

平製氷の小名濱進出は同社のいけて船舶へ直接積込める樣便益はば活路でありにゝに着眼した同社は製に二十噸製氷機を据付け夏季需要期に遺憾なからしむるなど益々出でゝ寄才縮橋振り工事關係には人一倍の仕事を殘してゐる、立派な德の人であれば共數も足らぬ二十二名といふ心細さである、昨今ミナト小名濱の黄金時代到來に需要供給のバランスがとれず業者は上王五噸製氷機と冷藏庫小名濱町に二十噸十噸製氷機び貯藏庫がある社長木村清治氏專務理事松本一郎氏、重役に小野晋平氏、立花雄七氏、水野政次郎氏太清左衛門氏伊藤淺之助氏、關内正一氏、金成通氏、渡邊貴一氏等

藤社商店は
高木忠治氏


寫眞は松本專務と築港碎氷機

米穀肥料、商としての小名濱代表的商店主高木忠治氏は社界人としては青年分團長の職にあり文學務委員としても選ばれてゐる方面への飛躍も欲する儘だ。

近藤產院主
近藤かぬ氏の精力

小名濱町近藤產院の際昌は院主近藤かぬ女史の精力的な努力が一面社界事業に盡力してゐる派手を好まず積善を築んでゐる。

野崎自動車の
野崎隆之亮氏

野崎自動車湯本小名濱間乗合の擔當者、アクセクせぬ悠々たる態度は今頃の人には一寸珍らしい型である。

龜井商店
小名濱駐在所

鹽釜港に本店を置き關東北に網を張る油問屋で共の他種々の事業も經營してゐる龜井商店小名濱駐在所は待機の姿勢であつた

人格で地盤を堅めた
三崎組　太田勝康氏

地方土木業者の型を破り溫情で荒武者を操縱する士太田勝康氏が東京から小名濱に居を移したのは修築工事起工後である商港工事關係には人一倍の仕事を殘してゐる、立派な德の人であればこそ本町の工事と言へば三崎組の手が觸れざるなき進出振りで、殊に日本水素工事には地方

日本水產株式會社
小名濱冷凍工場

唯一の工事請負關係者であり、毎月三萬圓の仕事を請負つて昨年七月より五月迄には約四十萬圓の會社の金を請取つて地方に大正十三、四年頃の好況時代には四十五名位が常備され小名濱ッ妓を縣下に誇つたものだが今では共數も足らぬ二十二名といふ心細さである、昨今ミナト小名濱の黄金時代到來に需要供給のバランスがとれず業者は上王五百圓の軍資金か要るといふ。金國的の女拂底の時代とて何れも頭痛に病んでゐる現狀らしい

日本水產株式會社小名濱冷凍工產物の販賣業、之に附隨する投資事業の各部門に分れてゐる小名濱冷凍工場は昭和九年八月日本食料株式會社小名濱出張所から、昭和十二年日本水產株式會社と變更し小名濱工場となり初工製造に意を注ぎ投資に販賣に代工場長として秋山現工場長がゐ連絡をとり業界の恩人とされ着任したのである、小名濱工場る工場幹部は工場長秋山重作氏の事業は冷凍冷藏加工に分れ年會計主任遠藤進一氏營業部主任取引高四十萬と云ふ代表的業態遠藤龜次郎氏等である。（寫眞はである秋山工場長は地方竹輪加秋山工場長）

使命重大
小名濱信用組合

小名濱信用購買販賣利用組合は大正十二年小野四郎氏が同志と語らひ創立したので同氏が故人となつて長瀬金右衛門氏が後を引繼いた。

最近年財界の慌恐が全國的に蔓延して組合の發展を期しつゝある時獨り信用組合のみは共の慘禍の圏外に在つた。

信用組合は、都市にも農村にも今や不可分の金融機關となつた特に漁港が商港となり更に工業都市として發足せんとする飛躍期の小名濱においては一層使命の重大さが痛感される。

局非常の折柄滅私の精神を發揮して組合の發展を期しつゝあることは本町としても衷心感謝の念に堪えぬことだ。

小名濱登記所
小澤所長と野澤上遠野兩書士

小名濱登記所長として佐々木前り協力して組合の擴充に奮闘する小澤四郎所長も、役人らしい四角四面の一方に酒脱せる人間味を有し汎く交遊も求めてゐる野澤勉書士は、日も淺く數年だが、信用と德望の點に於て登記所内隨一の流行兒で場内を風靡してゐる、上遠野新重郎書士は泉村長引退後昨年書士として矛收を揚げた人で前村長の光と信望は古參書士を凌ぐ實勢力である。

小名濱
藝妓組合

踏進小名濱町に差當り不足のものは藝妓の數だとされてゐる。大正十三、四年頃の好況時代には四十五名位が常備され小名濱ッ妓を縣下に誇つたものだが今方策に全精力を傾注してゐる、出るものは打たれるの筆法から行けば草野氏の行き方は一寸味が出て來る。

關彰油店
小名濱出張所

株式會社關彰商店、小名濱支店は昭和十年六月現在の場所に開設して、以來滿二ケ間、此の間小名濱町の發展飛躍と相俟つて内容いよ〳〵充實し一方江名町樂港内には給油所、泉驛前には油槽所を設け異常の躍進をとげた、今回小名濱修築工事の完成を機に更に一段の飛躍を試むべく十餘名の雇員一同素晴しい張切り方である。

現支店長熊田庄藏氏は、昨年春（此の點不明です）茨城縣の久慈支店より榮轉した、溫厚篤實の士で商才に長け小名濱支店の今日あるは殆ど氏に負ふ所である。

銘酒
〔養老〕の
草野良太郎氏

近來の草野氏は、餘り派手を追はず專心銘酒養老の醸造に販賣方策に全精力を傾注してゐる、出るものは打たれるの筆法から行けば草野氏の行き方は一寸味が出て來る。

大平勳氏
製材工場主

大平氏經營の田畑屋製材工場は最古の大工場であり、最近は箱材工場迄も兼營してゐる氏の絶大なる信用の發祥する人格、慈泉村長引退後昨年書士として矛善は餘り有名で働く事、資財を收を揚げた人で前村長の光と信得る事は汎く慈善を施す爲であると身を以て實行してゐる現在望は古參書士を凌ぐ實勢力である。は消防幹部であり方面委員であり學務委員であり小名濱隨一の青年實業家である。

小名濱
西洋料理組合

ミナト小名濱尖端人のオアシス小名濱のネオン街には十一軒のカフエーが五十餘名の麗人を擁して灯にあこがれる若人を招いてゐる。

商港の完成、水素工業の操業開始はネオン街にも黄金時代を齎らすものと同業者の期待は頗る大きくそれ〴〵發展策を講じてゐるやうだ。

組合長木下氏は同業間の親睦融和と向上に不斷の努力を續けてゐる、十一軒のカフエーは左の通り

大學、ウラ、同支店、みのりウキヨ、安兵衛、ホーライ、吾妻、小野瀬、宋廣、紅椿

小名濱
海產商組合

小名濱港から水揚げされる年產額二百萬圓の鮮魚を右から左に捌く小名濱鮮魚商組合は新興小名濱町の中堅層をなし組合員個々としても立派な基礎を築き上げてゐる組合としての財產は年々水揚高の二厘を利得する事で現に二萬餘圓の豫猶があり目下町營魚市場改裝と共に組合でも約一萬圓を投じ魚市場と軒を並べて二階層の事務所及び倉庫を新築中である。

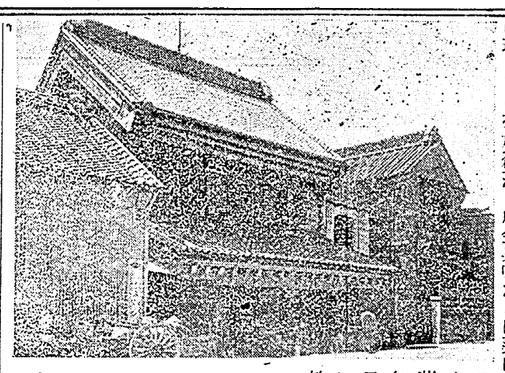
組合長に小野豐次氏を推し、副組合長が馬上喜一後田義之助兩氏で會計は立花新次郎氏外に理事、監事としては共他十一名ある。

小名濱料理保健組合

小名濱海の玄關より、上陸するので組合長に赤津辰吉氏の、大女儀錠の性の對照となりそんな親分があり會計に藤田武氏の、方面に奉仕する娘子軍の小名濱奇才縱横な適役あり副組合長に町は、三十軒の御料理店に約壹曾我留次郎氏の、智略の士が控百餘名の陣容を張り、萬遺憾なへて居る、料理保健組合の將來きを期して居る小名濱料理保健には種々なる改善を要す案件重組合も中心人物がなければ仲々巷の折斯くも人材揃ひの幹部を統制がとれるものでない、共處得た事は本組合の爲めに祝福すに行くと小名濱組合は惠れたもべき事であらう、

釜屋でモートル販賣
今春來營業擴張
多趣味な令弟元三郎氏

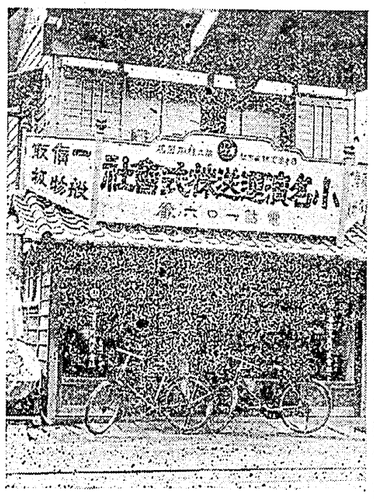
東北屈指の豪商平市釜屋商店は舊幕時代苗字、帶刀御免の名門で誠實と努力をモットーに今日を築き上げた、農銀重役、平庶民金庫理事長の當主久太郎氏（二代目）は最高學府出の知識人に珍らしく豪放磊落、成金臭味などは藥にしたこともない、元三郎氏も令兄と同じく早大出身比類なき藏書家で三猿文庫は知る人ぞ知るである又盆石に關しては既に一家の見識を存し姓名學の溫蓄は深い同店は今春來日立製作所と契約成つて、モートルを取扱つてをり、各炭礦、會社、工場、及び其の他の需要者から絶讃を浴びてゐる。



× ×

海岸軌道と姉妹關係
小名濱運送株式會社

昭和六年僅か一萬圓の資本で所を設け事業の圓滑を圖つてゐ式會社は小名濱町の發展に伴ひる、業務擔當者は會計主任の槍必然的に生れただけに大荷主等田敏治氏、が支配人格發送主任が株主であり加ふるに西丸猛氏が野口源太郎氏、江名出張所にの熟と力で六年目には三萬圓に大峯敏太郎氏、泉出張所に丹野



增資され現在の一ケ年取扱貨物旅四郎氏、があり重役は社長平は二萬瓲を突破するといふ隆昌澤久次郎氏西丸猛氏、高木忠次を見るに至つた、同運送店は磐氏、立花新次郎氏、加澤萬吉氏海岸軌道とは姉妹關係にあり、加澤保太郎氏、鈴木熊次郎氏金公認運送店である、最近は貨物成利惣太氏等である。自動車二臺迄も購入荷主の便益

× ×

陣容全く整備
磐城海岸軌道會社

泉、小名濱間に目下私設鐵道敷設の計畫を進めてゐる。磐城海岸軌道株式會社は大正四年資本金十萬圓で創立、社長に中野浩忠氏、を據え支配人一任の方策で進み好況時代には、見るべき業績を擧げ大正十四年には二十萬圓に增資したが頻々たる支配人の更迭あるに至り、昭和八年現支配人西丸猛氏が、就任した以來營々として整備に努めてゐたが昭和十一年末、日曹ク七輛、ハイヤー三輛、大バス社長中野友禮氏、との提携成り四輛、軌道車三輛を有し且つこ根本的な樹直しに成功した、社長は中野友禮氏、地元の重役に小野晋平氏、草野良太郎氏あり

西丸猛氏が、支配人として最早

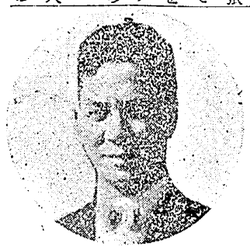
丸八鐵工場
倉兼常八氏

小名濱町海の玄關築港入口に丸八鐵工場の看板を掲げ立派な新築家屋に納り、訪客の誰彼をどらへ言論縱橫樂天的な存在たる倉兼常八氏も、又鐵工場を經營する場長なのだから自分の御客を吹き飛す程の無謀は敢てしない事丈け保證出來るが、時々新聞記者などは吹き飛されると嘆に聞く。

小名濱上水道工事

小名濱上水道工事は所長拔手原期中に二期の工事も含まれてゐる、水量は一畫夜二萬三千石を立派に認められた町役場工事も込み丈けに立派だ家屋の搗勸船個人の工事も大小となく北村氏が、手を染める敬遠より敬崇へ場の感がある、事業は人格の反映とすれば北村氏の將來も、又氏の、人格がハツキリ認識され洋々たるものがある。

七十七銀行
小名濱出張所

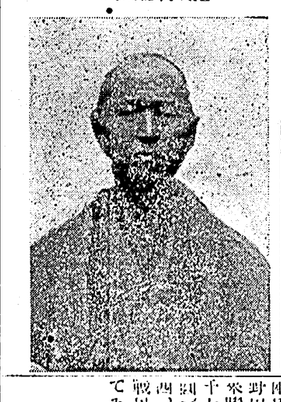


濱唯一の銀行七十七銀行小名濱出張所は昭和四年の開設現出張所長櫻井氏の、就任は同八年で赴任當時と現在との營業統計を見ると約五倍の增加で既に一ケ年一千萬圓に垂々とする業績らしい躍進ぶりである。

今次の商港竣功日本水素の一大工場建設は何としても支店への

小名濱海産物卸商業組合

小名濱海産物卸商業組合の創立は本年三月であるが前身たる、小名濱海産製造組合は昭和四年に創立された、商業組合の目標は會員たる海産製造業者の共同仕入共同販賣事業の統制等で出



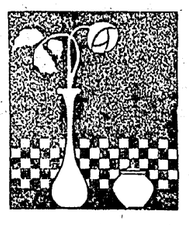
金成利惣太氏

保證金で三萬三千六百圓に同額の保證金で三萬三千六百圓になつてゐる、組合の運用は理想的に行はれ八十餘名の業者が一糸紊れぬ統制の下に共同の利益發展を期してゐる、役員には理事長金成利惣太、理事田中權太郎、小島源七、鈴木米太郎、冠たる一千萬の契約高を有する川村太吉、草野增隆昌、佐藤清助の諸氏を擧げ事務一切は書記長菊田敏黑田秀雄氏が、起用された同氏が當つてゐる。

郡山無盡株式會社
信望厚い黑田支店長

本縣郡山市に、本社を有する郡は、元二本松電氣小名濱支店長山無盡株式會社は前身を奥羽殖産無盡と云ひ福島市に本社を置いた、それを現郡山無盡の重役が買收し昭和五年の十二月本社を郡山市に移轉したのである、當時の三萬圓の資本金は本年一月二十萬圓に增資され、縣下に十有餘年事業の擴充と、將來の發展性に鑑み昭和十一年七月資本金十二萬圓の株式會社に組織を變更し昭和五年平市に本社を移して現在に至つた、小名濱出張所は所長小川爲八郎氏が、推加入者二萬四千九百餘その契約高六百九十四萬圓餘、出張所二十四會場二十二を擁して縣下無盡業界に覇を唱へてゐる、磐城無盡株式會社は、大正十年現社長小宅嘉久治氏が、庶民金融を旗印に居植田に、したもので始め磐城無盡商會と稱へた、爾來本町に於ける北村組の存在は支配人福尾伊太郎氏の、寢食を忘れた努力は海港小名濱を永久に銘記すべき所である、同社は事務所も魚市場に接續し新築中である、尙同社の取扱つた魚

縣下無盡界の雄
石城無盡株式會社



言ふべく同社の多幸な明日を約束づける。

從業員六千名
事變下に一意產業報國
常磐炭礦界の雄、磐城炭礦

常磐炭礦界の雄、磐城炭礦は明治十六年澤澤榮一、淺野總一郎氏の出資で創立し初めて現小野田炭礦の開發に着手した、爾來鑿進に鑿進、現在は資本金壹千七拾五萬圓（拂込金九百十萬圓）と年產（昭和十二年）八二四、一四九瓲に達し實に歐洲大戰以來の好況時代を現出せしめてゐる、從業員男女合せて六千名完備した福利施設に惠まれ時常磐炭礦の雄、澤澤榮一、淺野總一郎氏の出資で創立し初めて現小野田炭礦の開發に着手した、爾來鑿進に鑿進、現在は資本金壹所長 菅原眞次郎、副所長 山崎善三郎、工作部長 加美山武夫、採炭部長 田寺淺實、町田坑長 鄭榮源作、綴坑長茅根正夫、住吉坑長、小島義淺、小名濱坑長 志賀隆壽

小名濱町開業醫

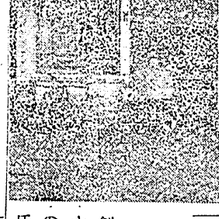
從業員六千名
事變下に一意產業報國

常磐炭礦界の雄、磐城炭礦の契約高は將に二十萬圓に垂れんとする活況である、尙同社の取締役は左の有力な諸氏である

専務 遊佐丑松
福内和介
七島長太郎
沼田寅
種橋初藏

大野倉之助氏

小野倉之助氏は、小野鐵工場主で擴張への一路を辿ると共に第一區長として令名あり、本年二度の勤めに推された硬骨卒直な實業家である。



土木曳前請負業
北村芳藏氏

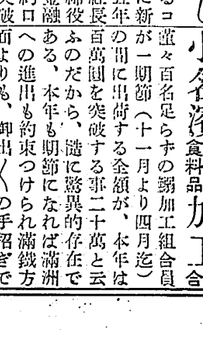
小名濱郵便局長
郵便局長

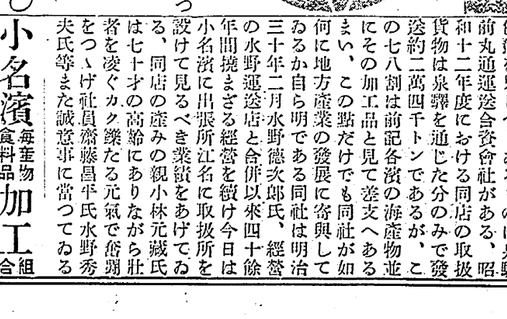
小名濱郵便局長鈴木忠亮氏は、現代型紳士で事務的で眞面目な十工費六萬二千圓で鐵骨組立もの青年局長である、遞信局方面の受けも萬點で近くは局舍の改築を捻へ遞信事務に遺憾なきを期してゐる。

× ×

水產小名濱の名聲
逐に天下に轟かす
磐城水產工業の功績絶大

商港竣功式の晴れの祝賀場となつた、町營魚市場は建坪六百四十工費六萬二千圓で鐵骨組立もの百萬圓拂込金二十五萬圓を以つて創立したものである、元來魚市場は小名濱漁業組合共同販賣所と稱し明治三十六年七月開所されたものが水產工業の創立を見るに及んで經營移行の儀が起り大正十五年七月遂に一切を引受けたのである、爾來同社はこれが經營に全力をつくしてゐるが町は多年に亘り漁港改修上多大の出費をなし尙今後の施設は町の力に俟つことになるため之れが、財源の一部に充當せんと時和九年來關係者協議の結果町營に移つたものである、かくして魚市場は町營となつたが經營は依然代行し漁業の振興廻船の誘致に力を注ぎ一面製造業者を督勵して水產小





名濱の名聲を天下に轟かすに至つたものである、此の間に於ける支配人福尾伊太郎氏の、寢食を忘れた努力は海港小名濱を永久に銘記すべき所である、同社は事務所も魚市場に接續し新築中である、尙同社の取扱つた魚

昭和元年	四六一、八八二	
同 五年	七五一、五七四	
同 十年一	八六一、四五四	
同 十年二	一四七、九六七	

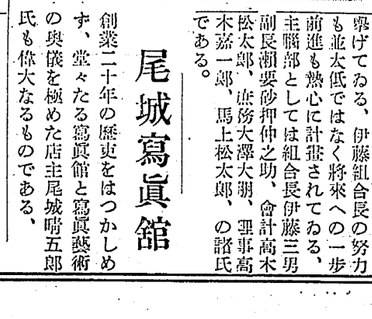
（圓以下略）

小名濱料理旅館組合

町の進展に連れ料理業、旅館業が其の尖端を行くべきは當然であつて、其處に行者も尚せられた一つの責務を感ずるわけだ、振興の雰圍氣に丹地寛平氏、田中福松氏の、存在が必要として發生したものだ、同業間の調和藝妓屋組合との接配宜きたものだ。

營業區域を廣め
飛躍する湯本無盡
創業十五年基礎益々固し

湯本町に本社を置く、湯本信用無盡株式會社では支店出張所をコンクリート二階建を紺屋町に新し金々社業を伸張せしめてゐる、現在鈴木康平氏を、取締役社長に、同社は創業以來十五年の間に出荷する全額が、本年は百萬圓を突破する全額が、本年二十萬と云ふのだから、遂に驚異的存在である、本年も期節になれば滿洲への進出も約束つけられ滿鐵方面よりも、御出〳〵の手招ぎである、これが誘掖指導に當る加工組合では組合員の共同買入共同出荷と總てに心を用ひ業績を擧げてゐる、伊藤組合長の努力も並大低ではなく將來への一歩前進も熟心に計畫されてゐる、主腦部としては組合長伊藤三男副長潮要砂押仲之助、會計高木松太郎、庶務大澤大朔、理事高木嘉一郎、馬上松太郎、の諸氏である。



尾城寫眞館

創業二十年の歴史をはつかしめず、堂々たる寫眞館と寫眞藝術の奥儀を極めた店主尾城晴五郎氏も偉大なるものである、

壯者を凌ぐ
小林翁

泉驛前丸通運送合資會社

小名濱、江名、豐間の各濱に於ける海產物は蓋し莫大な數量に上つてゐるが、これが輸送の重要任務を果しつゝあるものに泉驛前丸通運送合資會社がある、昭和十二年度における同店の取扱貨物は泉驛を通じた分のみで發送約二萬四千トンであるが、この七八割は前記各濱の海產物並にその加工品と見て差支へあるまい、この點だけでも同社が如何に地方產業の發展に寄與してゐるか自ら明である同社は明治三十年二月水野德次郎氏、經營の水野運送店と合併以來四十餘年間撓まざる經營を續け今日は小名濱に出張所江名に取扱所を設けて見るべき業績をあげてゐる、同店の產みの親小林元藏氏は七十才の高齡にありながら壯者を凌ぐカク鑠たる元氣で奮闘をつゝげ社員齋藤昌平氏水野秀夫氏等また誠意事に當つてゐる

小名濱
海產物加工組合

食料品

湯本町に本社を置く、湯本信用無盡株式會社では支店出張所をコンクリート二階建を紺屋町に新し金々社業を伸張せしめてゐる、現在鈴木康平氏を、取締役社長に、同社は創業以來十五年の間に出荷する全額が、本年は百萬圓を突破する全額が、本年二十萬と云ふのだから、遂に驚異的存在である、本年も期節になれば滿洲への進出も約束つけられ滿鐵方面よりも、御出〳〵の手招ぎである、これが誘掖指導に當る加工組合では組合員の共同買入共同出荷と總てに心を用ひ業績を擧げてゐる、伊藤組合長の努力も並大低ではなく將來への一歩前進も熟心に計畫されてゐる、主腦部としては組合長伊藤三男副長潮要砂押仲之助、會計高木松太郎、庶務大澤大朔、理事高木嘉一郎、馬上松太郎、の諸氏である。

森口產婦人科醫院

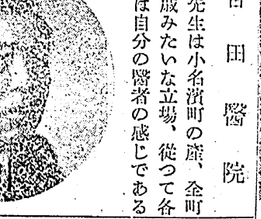
小名濱町舟引場に產婦人科の看板を掲げ青年醫師と、して且つ唯一人の專門醫として婦人間の信頼の的となり晝夜の別なく御婦人の足を曳く、以て先生の手腕技量を知るべきである。

久保田醫院

小名濱刀圭界の元老格、町醫たり、校醫たる久保田眞先生が最も得意の技量を有するは產婦人科であらう、如何なる難產も先生の手にかゝれば大丈夫との折紙がついてゐる。

內科、小兒科にも信任が厚い。

石井醫院



石井先生は朝から晩迄良く身輕に飛廻る、患者が多過ぎる感がある、今、東に居たかと思ふと西に廻り、若くて身輕で普通の二三倍の仕事は出來るであらうサツパリしてゐて患家の受けは萬點。

會田醫院

會田先生は小名濱町の產、金町が親戚みたいな立場、從つて各家庭は自分の醫者の感じである親切を第一義とし患家には何事にも相談づくで行く、信頼されるのも無理からぬ事。

草野醫院

草野先生は外科の權威として一般に認められてゐる本町唯一人のレントゲンの所有者で溫厚且つ懇切、最近水素工業の囑託醫もかち得た模樣である。

宮津醫院
宮津操先生

社交拔きの醫師としての技能で行く處に先生の眞骨頂がある、近來の社交第一主義より見れば何としても親しみ深く信頼出事る、醫師として研究時代は過き既に收穫の時代